

外来化学療法部

■ スタッフ

部長 影山 慎一
副部長 井上 靖浩

医師数 併任 13 診療科医師

■ 部門の特色

注射剤による外来化学療法（がんに対する細胞毒性抗がん剤、抗体治療薬、ホルモン治療薬、良性疾患に対する抗体治療薬など）を院内で一元化して実施することにより、適切かつ安全な専門の治療を推進することを特色としています。2009年4月に中央診療部門として外来化学療法部が設置され、全診療科参加型で運用しております。治療は各診療科医師が計画を立て実施をし、外来化学療法部においては、医師の実施を受けて治療薬調製を行い、看護スタッフらから治療観察を行うチーム医療を実践しています。

■ 診療体制と実績

1. 業務体制

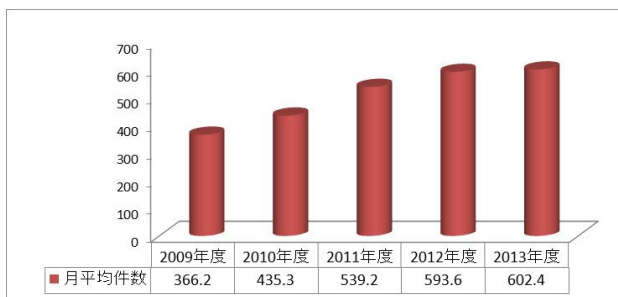
外来化学療法部は病院2階にあり、12の治療ユニットに加えて、隣接内科外来にも3ユニットを追加して、15ユニットでの運用をしております。また、薬剤調製室に2台の専用安全キャビネットを設置し、当日治療決定された化学療法剤の薬剤調製を行っています。また、専用の診察室を2部屋設置しています。

2009年7月よりは全科を受け入れた体制で院内の外来化学療法が一元的に行われております。また並行して治療レジメン登録も完備され、登録レジメンからの注射薬処方が行われ、薬剤部でのダブルチェックを行い、ヒューマンエラーを回避し、安全な外来治療が行われています。

外来化学療法部では定例運営委員会が開催され、医師、看護師、薬剤師、事務側と院内多職種の打ち合わせが行われています。

2. 診療実績

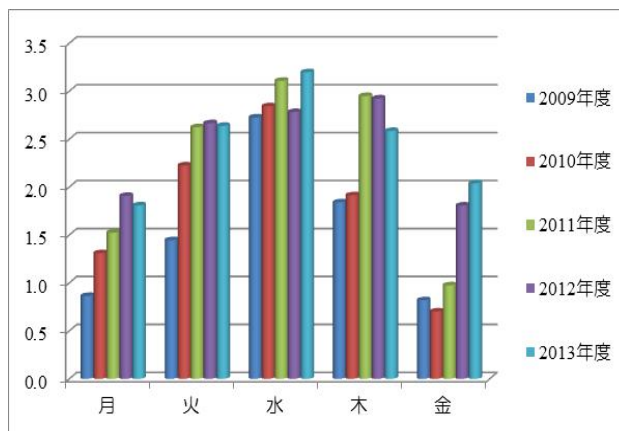
2013年度まで治療実施数の年次別推移を下図に示します。2013年度は7229件、月602件の治療実績であった。台数を月によるバラつきはあるもののほぼ一定に推移しています。



15ユニットの稼働率は、年次毎に上昇し、2013年度は2.5と極めて高い値です。

2009年度	1.4
2010年度	1.8
2011年度	2.2
2012年度	2.4
2013年度	2.5

曜日別には、火曜、水曜、木曜の利用が多く、月曜、金曜はやや少ないですが、稼働率自体は高い値です。



診療科別では、腫瘍内科の治療数が最も多く、呼

吸器内科、腎泌尿器外科、消化管外科、肝胆膵外科の順でした。院内14科の治療を担当しました。

	腫瘍	呼吸	血内	消内	消外	肝胆膵	乳腺	腎泌	小児	産婦	耳頭	腎内	IVR	児外
2012年1月	179	81	17	15	55	74	13	84	37			2	4	
2月	155	69	14	14	76	73	19	80	20			2	6	
3月	151	65	18	21	68	78	16	82	26			4	2	
4月	155	68	18	15	58	65	12	90	26	1	3	3	3	
5月	206	83	28	22	81	72	20	76	27	13		2		
6月	194	76	24	15	61	62	14	82	27	8		1		
7月	213	90	34	20	55	85	12	85	30	10		1		
8月	198	101	37	21	54	91	22	84	29	14		3		
9月	168	90	21	21	46	71	14	81	27	11		2		
10月	192	102	34	28	44	82	16	101	30	8				
11月	204	89	20	20	40	95	19	80	26	8		2		
12月	170	89	18	23	43	89	17	83	29	3		2		
2013年1月	187	103	23	13	43	95	16	94	41	3				
2月	159	92	20	24	44	78	21	85	35	5	2	2		
3月	161	88	21	15	54	79	20	103	32	1	2	3		1
4月	173	102	23	21	49	74	22	98	39	1	2			2
5月	173	113	26	22	78	70	24	100	37	1		1		3
6月	164	90	30	20	57	51	22	91	31	1	4	1		1
7月	189	93	32	15	68	59	24	103	33	1		1		4
8月	179	88	34	24	56	66	20	100	30		1	1		3
9月	154	100	30	23	57	54	22	97	23			1	3	2
10月	188	123	42	24	77	50	30	118	36			1		3
11月	180	97	36	24	53	47	16	87	28	2	1	2	1	3
12月	167	78	44	23	63	51	21	84	30	3	3	2		3
2014年1月	170	104	31	24	65	58	28	111	31	3	10	2		4
2月	159	90	31	19	63	54	15	92	25	3	9			2
3月	139	100	36	33	66	61	24	82	24	2	8	1		2
4月	171	82	33	25	66	60		6	23	3	3	1		3

■ 今後の展望

運用開始後、5年目を向えて順調な治療実施となっています。安全性には問題なく運営されています。しかし、現在の12(+3)のユニットでは絶対数の不足があります。新外来棟への移行まではこれまでの治療数を維持して安全な外来化学療法を継続することとします。